幕末と明治初年の日記を読む　解答

史料１　文久二年（一八六二）八月　「不如学斎日記　三」〔小室家文書四二〇〕

（表紙）
「
不如學（学）斎日記　」

（○八月朔日快晴
○当日之佳節芽出度祝ひ候）
○亭主和田山平、越生大和屋・加嶋屋、
桃木坂本ニ而八ツ頃昼食をねたり
峰岸へ行、同所ゟ暮而田中新宅へ立
寄
○元昇五明ゟ大塚静太郎へ行、下小川
青木ゟ迎ニ付回り
○昨夜竹本縊死人検分、今宿次郎左衛門殿へ
被仰付假(仮)葬ニ相成候由
○二日雨
○亭主二本木十之助・内蔵之助、一市日野屋・桶
屋・久左衛門、關(関)堀常吉、大野忠右衛門・要次郎・
伊勢松・縫二郎・新右衛門・銀蔵・市郎左衛門・市右衛門・
助左衛門・由兵へ江行、竹海戸ゟ暮而峰岸へ
立寄、両家合拾四人診察、田中十兵へ
を叩キ起し診察、帰宅雞鳴
○元昇唐沢留吉、本郷長二郎、五明亀吉、
田中・栗海戸邊(辺)回勤

○家内平へ氣(気)合聞ニ行、泊り
○三日ゟ十四日迄元昇一同日々諸所奔走、毎
夜々半又者雞鳴帰宅ニ付廃筆
○十五日快晴、夕刻雷雨、夜半頃曇月
○亭主平新宅・わたや・辻屋、大野権左衛門・
十助・新蔵・栄蔵・助右衛門・縫二郎・助左衛門・
太兵衛・市右衛門・武左衛門・由兵衛・忠二郎・金剛院・
久右衛門・権七・平兵衛・義兵衛・仙蔵・源左衛門・
友吉江行、桶屋ゟ提灯ニ火を点し
帰宅、又々新宅、わたや、關(関)堀丈吉へ
立寄帰宅

○十八日快晴、夕刻雷雨
○亭主日尺兵左衛門、關(関)根忠二郎江立
寄帰宅、玉川三右衛門、五明源之助、
中野喜三郎・永二郎・仁兵衛・平五郎へ行
○元昇大野權(権)七郎・久左衛門・八左衛門へ行、
小川へ回り

【読み下し】
(表紙)
「
不如學(学)斎日記　」
(○八月朔日快晴
○当日の佳節めでたく祝い候)
○亭主和田山平、越生大和屋・加嶋屋、

桃木坂本にて八ツ頃昼食をねたり
峰岸へ行く、同所より暮て田中新宅へ立ち
寄る
○元昇五明より大塚静太郎へ行く、下小川
青木より迎えに付き回り
○昨夜竹本縊死人検分、今宿次郎左衛門殿へ
仰せ付けられ仮葬に相成り候由
○二日雨
○亭主二本木十之助・内蔵之助、一市日野屋・桶
屋・久左衛門、関堀常吉、大野忠右衛門・要次郎・
伊勢松・縫二郎・新右衛門・銀蔵・市郎左衛門・市右衛門・
助左衛門・由兵衛へ行、竹海戸より暮て峰岸へ
立ち寄る、両家合せて拾四人診察、田中十兵衛
を叩き起し診察、帰宅雞鳴
○元昇唐沢留吉、本郷長二郎、五明亀吉、
田中・栗海戸辺り回勤
○家内平へ気合聞きに行く、泊り
○三日より十四日迄元昇一同日々諸所奔走、毎
夜々半又は雞鳴帰宅に付き廃筆
○十五日快晴、夕刻雷雨、夜半頃曇月
○亭主平新宅・わたや・辻屋、大野権左衛門・
十助・新蔵・栄蔵・助右衛門・縫二郎・助左衛門・
太兵衛・市右衛門・武左衛門・由兵衛・忠二郎・金剛院・
久右衛門・権七・平兵衛・義兵衛・仙蔵・源左衛門・
友吉へ行く、桶屋より提灯に火を点し
帰宅、又々新宅、わたや、関堀丈吉へ
立ち寄り帰宅
○十八日快晴、夕刻雷雨
○亭主日尺兵左衛門、関根忠二郎へ立ち

寄り帰宅、玉川三右衛門、五明源之助、
中野喜三郎・永二郎・仁兵衛・平五郎へ行く
○元昇大野権七郎・久左衛門・八左衛門へ行く、
小川へ回り

史料２　明治五年（一八七二）正月　「不如学斎日記　一」
〔小室家文書一五一〕

○壬申正月元旦丙戌快晴、午後風あり
早起、屠蘇・雑煮を祝ふ、余は故ありて餅を絶
村内一同年禮（礼）ニ来る、旧例ニ因テ素麺を出ス
おやす雞鳴頃より破漿ニ付引籠る、晡後より追々陣
痛増進、夜中第一字頃男子安産、母子とも健全
○二日丁亥快晴、午後風
おやす安産ニ付林村佐久間へ為報告僕勘二郎
遣候、泊り
恭平根際坂本勇吉へ行
老拙村方年礼

【読み下し】

○壬申正月元旦丙戌快晴、午後風あり
早起、屠蘇・雑煮を祝う、余は故ありて餅を絶つ
村内一同年礼に来る、旧例に因って素麺を出す
おやす雞鳴頃より破漿に付き引き籠る、晡後より追々陣
痛増進、夜中第一時頃男子安産、母子とも健全
○二日丁亥快晴、午後風
おやす安産に付き林村佐久間へ報告のため僕勘二郎
遣し候、泊り
恭平根際坂本勇吉へ行く

老拙村方年礼

史料３　明治六年（一八七三）一月　「日記　一」〔小室家文書四二四〕

○明治六癸酉年一月一日、即旧暦壬申十二月三日
家内無異事早起、屠蘇を廃し清酒を以対酌、老ゟ
少ニ至雑煮を祝ふ
当年者門松を廃し榊ノ枝ニ四垂を提、歳神ノ棚等
も不拵潔キ事ニ御座候
年玉贈答なし、老拙仲太郎・忠治・嘉吉・長重・六四郎・駒吉・
ミな・柳七へ年始ニ行、其余闔村ハ恭平出行、代勤
○二日快晴、暖也
老拙高山忠三方へ年始ニ行、末廣(広)一對(対)、恭平同断
五三桃木・平村へ年始ニ行、半紙弐帖、おさの・お大へ歳
（暮トして金弐朱・足袋壱足ツヽ遣候）

【読み下し】

○明治六癸酉年一月一日、即ち旧暦壬申十二月三日
家内異事なく早起、屠蘇を廃し清酒を以って対酌、老より
少に至るまで雑煮を祝う
当年は門松を廃し榊の枝に四垂を提げる、歳神の棚等
も拵えず潔き事に御座候
年玉贈答なし、老拙仲太郎・忠治・嘉吉・長重・六四郎・駒吉・
ミな・柳七へ年始に行く、其余闔村は恭平出で行く、代勤
○二日快晴、暖也
老拙高山忠三方へ年始に行く、末広一対、恭平同断
五三桃木・平村へ年始に行く、半紙弐帖、おさの・お大へ歳

（暮として金弐朱・足袋壱足ずつ遣し候）